

第1部
成田国際空港と地域創成

成田市副市長

吉田 昭二

皆さんこんにちは。成田市の副市長の吉田と申します。本日はお招きいただき、ありがとうございます。テーマは『成田国際空港と地域創成』ということで、成田空港は成田市のみの立地ではありませんが、成田市が代表選手と呼んでいただいていたものと思っています。成田市の観光を中心にお話ししようと思っていますが、観光にはさまざまなものごとがつながっていますので、その点も含めて、成田市の取り組みを紹介させていただきたいと思います。

ご存じの方も多いと思いますが、成田山新勝寺は、来年（2018年）開基1080年を迎えます。その歴史については後ほど説明しますが、ここで少し宣伝をさせていただきます。成田市には、うなぎと飛行機を組み合わせた『うなりくん』というゆるキャラがいます。只今『ゆるキャラグランプリ2017』というゆるキャラの人気投票が開催されていまして、11月18、19日の両日に三重県で最終決戦が行われます。ホームページでは表示が「？」マークになっていてまだ結果は分かりませんが、現在この時点で暫定第2位で、愛知県の知立市の『ちりゅっぴ』と、大変なデッドヒートを繰り広げています。知立市は7万人、成田市は13万人と人口では勝っていますが、なかなか追い付くことができないという厳しい状況です。すでに投票は締め切られていますが、皆さんには『うなりくん』が頑張っているということだけ、ご承知おきくださればと思います。

若干、市の概要を説明させていただきます。成田市は成田空港直近の自治体で、東京駅から約50キロ、千葉駅から約30キロ離れています。そして空港を挟んだ芝山町のほか、印西市、富里市、香取市、茨城県と隣接しています。3万年前から人が住んでいる古い土地なのですが、有名になったのは940年に成田山新勝寺ができてからで、その後は門前町として栄えてきました。昭和になって成田国際空港が開港、成田市よりも成田空港のほうが有名になりました。平成18年の合併まで何度かの合併を繰り返し、現在の人口は約13万

人、約6万世帯を擁する市です。先ほど成田国際空港エアライン営業部の高橋部長から話があったように、成田開港のおかげで交通インフラも整備され、アクセスが非常に良くなりました。未着工の最後のミッシングリンクと言われている大栄から松尾横芝インターを残してはいますが、ここが繋がると圏央道も完成というところまでできています。北千葉道路は、市川や鎌ヶ谷、この辺はなかなか計画が進まないのですが、成田側は少しずつ進捗してきており、これが完成すると東葛地域とのアクセスが非常に良くなります。

成田空港はさまざまな経緯をもって開港しましたが、周辺の自治体には相当の恩恵もあると認識しています。空港周辺の5市町の歳入の総額は、1970年を100%とすると、2010年には1,800%以上にまで達し、その伸び率は千葉県や全国に比べてもはるかに大きく、その恩恵が数字として表れています。人口でも、同じく1970年を100%とすると、2010年には約200%になっており、これも同様に、大きく伸びています。最近では、人口減少の自治体も多く、佐倉市でさえここ最近5年間は人口が減るという傾向のなかで、成田市はありがたいことに、いまだに人口増加を続けています。

成田空港と周辺地域がどのような協力関係を築いていこうとしているのかを説明します。

成田空港は、その建設・開港に至る経緯のなかで多くの死傷者を出すなど、当時、非常に大きな社会問題となりました。成田市民も大きな影響を受けてきており、そのような歴史の礎のうえに現在の繁栄があります。

成田空港は国際交流の拠点であり、交通の拠点であり、物流の拠点であり、企業集積の拠点であり、雇用の拠点でもあります。現在、成田空港には約5万人が働いていますが、そのうちの約1万5,000人は成田市民です。

そんな成田市の発展のなかで、本日のテーマのポイントの観光振興についてお話しします。単一で成り立つものではない観光産業は、飲食や宿泊、交通、卸業や小売組合、土産店、また建設業や農林水産業、それから新勝寺をはじめとする宗教・伝統文化、英語教育、医療教育と、こういったさまざまな業種が相まって、観光振興・地域振興が成り立ちます。これからもそういった広い視点で勉強していかなければ、ものごとは前に進んでいかないだろうと思います。これは別に成田に限ったことや、成田だけに留めていいものではなく、周辺地域の観光や、医療、農業、そして最終的には地域の発展につなげていかねばならないという気持ちで取り組んでおります。

そういった幅広い取り組みにおいて、4つの大きな拠点を挙げます。当然ながら第1に成田国際空港、第2に観光の拠点としての成田山新勝寺、第3に新しくできた国際医療福祉大学医学部（以下、医学部）とこれから建てられる医学部付属病院、そして第4に新しく移転整備をする空港に隣接する成田市場、これら4つをエンジンとし、成田の地域振興を支えてもらいたいと考えています。

まず空港の話で言いますと、現在協議中ながら、空港のさらなる機能強化がわれわれにとっては最も関心の高いところです。滑走路をもう1本、C滑走路としてつくり、



B滑走路を1,000メートル北に伸ばし、3本の滑走路により、現在の年間発着回数を24.5万回から50万回に増やす計画があります。これが実現されれば、さまざまなインフラ、産業、そして観光が推進され、地域に及ぼす影響は計り知れないものがあると予想されます。

当然、成田地域の住民のご理解が前提ですので、50回ほどの説明会を開催しています。空港整備については大きな反対はなく、これは地域の発展のためでもあることは住民の方々にもご理解をいただけていると思っておりますが、深夜・早朝の発着についてはさまざまな意見をいただいています。

当初は5時から25時まで飛ばしたいという提案がありましたが、われわれ自治体のほうから、それではあまりに住民の負担が大きいと伝えました。現在、空港から再提案されているのは、まず、「東京オリンピック・パラリンピック」の前までにA滑走路のみ夜12時までの発着をさせたい、そしてC滑走路ができた段階で3つの滑走路を上手に使い、飛行経路の住民の住まいの上空を、少なくとも6時間は飛ばない時間を設ける、というもので、それをもって住民の皆さんに説明しているところです。

騒音対策については、今回、年間発着回数を50万回に増やすということで、当然騒音地域も広がり、それに伴い対策区域も広がるわけですが、騒音による移転地域にわずかながら住宅が残されていたり、A滑走路とB滑走路に挟まれた谷間と言われる地域の住民にとっては、2つの滑走路を合わせると5時から25時までの騒音に晒されることになる問題などもあり、継続的な課題も残されています。

拠点の第3として挙げた医学部の新設についてですが、これは将来的には観光にもつながる可能性があります。これまで38年間、医療の需給バランス上不要だということで新設許可されなかったのですが、戦略特区という制度のなかでようやく認められることとなりました。すでに今年（2017年）4月、京成公津の杜駅から歩いて1分ほどの場所に医学部を開校し、医学部付属病院は、2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」に間に合うよう、先月起工式を行いました。

医学部の特徴は、主に英語による講義です。140名の医学部の定員のうち20名は、その国の医療のリーダーになるような人材の育成のため、大学が奨学金を用意して呼んだ、東南アジアを中心とする優秀な留学生です。実践教育を中心に据え、世界標準以上の臨床施設を備えています。また、私立の学校としては日本で最も安い授業料を設定します。

付属病院は、病床は640床規模、約10カ国語に対応できるスタッフを揃える予定で、日本の医療に信頼をおく世界の方々が、この病院を目指して成田空港に来る可能性が拓けま

す。家族も含め、成田に来れば、医療ツーリズムといった、また違う発展が見えてくるかもしれません。今後は、医療産業、医療ツーリズム、国際的な人材の流入育成、学会等のMICE、そして経済効果と人口増加などが効果として期待されると思います。

4番目に挙げた成田市市場は、2020年の創設を目指しています。今も成田市公設地方卸売市場が稼動していますが、すでに40

医学部新設が決定	
<ul style="list-style-type: none"> 本市では、医師不足の状況を改善し、地域医療の発展を未来に繋いでいくため、以前から医学部創設に取り組んできた。 医学部新設は、昭和44年の医科大学での設置以来、認められていなかった。（東日本大震災の復興目的などで特別に認められた東北地方でのものを除く） 千葉県内の医学部は千葉大学の1校のみ。人口10万人以上の医師割合は全国最低レベル。 	
年月日	経緯
平成25年9月10日	国家戦略特別区における規制緩和と、医学部新設に強い意欲を持つ国際医療福祉大学と共同で医学部創設の解禁を請求
平成26年5月1日	「国家戦略特別区域を定める取組の公表」執行より、本市が正式に東京圏の国家戦略特別区の一郡に指定される
平成26年10月1日	第1回東京圏国家戦略特別区域会議が開催され、東京圏国家戦略特別区域計画（案）が示される
平成26年12月9日	第2回東京圏国家戦略特別区域会議が開催され、成田市分科会の設置が認められる
平成27年7月31日	成田市分科会で「国家戦略特別区域における医学部創設」に関する方針が了承され、内閣府・文部科学省・厚生労働省の3府省により決定された
平成27年11月12日	医学部創設に関して、内閣府・文部科学省の共同告示が公表・執行される
平成27年11月26日	第7回東京圏国家戦略特別区域会議が開催され、成田市において国際医療福祉大学が設置認可を受けた上で「医学部新設する区域計画（案）」が決定される
平成27年11月27日	「国家戦略特別区域」に定める大学設置事業を盛り込んだ東京圏国家戦略特別区域計画（案）が内閣府・文部科学省の両府省に送付される
平成28年3月	国際医療福祉大学が文部科学省に医学部の設置認可申請を行う
平成28年8月24日	大学設置・学校審議会から文部科学大臣に国際医療福祉大学の医学部創設を可とする旨の答申がなされる
平成28年8月31日	国際医療福祉大学の医学部の創設が文部科学大臣より正式に認可される

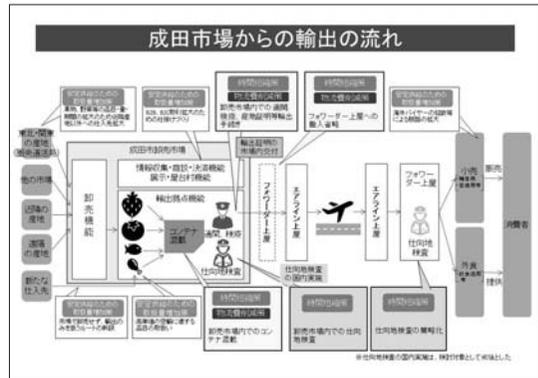
年を経て設備も老朽化しており、現在の耐震基準にも合っていないということで、空港の隣に新しい市場をつくり、そこから日本中の農水産物を集積、世界に輸出しようという大きな構想を抱いています。成田空港に近いという利点を活かし、輸出に際しての手続きを1ヵ所に集中します。圏央道もでき、道路アクセスも格段に良くなるということで、この場所に輸出拠点をつくらうという取り組みです。さまざまな手続きを1ヵ所で行うことにより動線を短くし、エアラインに乗せるだけの形にして空港に運び、そのまま輸出するという構想ですが、実際に今の卸売市場で試験的に行ってみたいところ、約90分で実質手続きが終わり、これは相当のニーズに応えられるのではないかと思います。

この成田市場は、当然農業振興のために創設するのですが、併せてここに食をテーマとする集客施設をつくる予定です。道の駅の拡大版と思ってもらえば良いのですが、ここにインバウンドの観光客にも来ていただき、できれば地場の、新鮮な農水産物をここで見て、味わっていただいたうえで、イチゴやナシ、サツマイモなどを買ってもらい、そのまま空港からお持ち帰りしてもらえればと思います。通常の航空機貨物だと物流コストが跳ね上がりますので、こういう形で人に運んでもらうということも良いのではないかと考えています。

地元のもものがここでたくさん売れば、それが世界的に評価されるという自信につながり、それがまた農業振興につながっていくことを期待しています。海外でも市場に隣接した施設で、食の魅力でお客さんを呼ぶという形態はよくみられます。この計画でそれが実現できれば、千葉の食文化を体験しながら、観光客自身による魅力の発信が可能となります。

ここでようやく観光の話になるのですが、成田市には年間1,000万人以上が来客する拠点が3つあります。まずは成田国際空港で、先ほどもあったように約4,000万人が利用しています。次に成田山新勝寺で約1,100万人。成田イオンモールにも1,000万人以上の来客があります。人口13万人の都市に、1,000万人以上の交流拠点が3つもあるということは、なかなかないと思っております。

成田市の観光の中心は、はるか昔より成田山新勝寺でした。新勝寺の歴史を少し振り返りますと、はるばる京都の神護寺から天皇家にゆかりのある僧正、寛朝が伝空海作の不動尊像とともに海路で千葉に上陸し、この成田の地で不動護摩の祈禱をして平将門の乱を鎮めた、というのが成田山新勝寺の由来です。その後、この不動尊像の行方が分からなくなるのですが、戦国時代の終わり頃に成田市内で発見され、江戸時代に不動尊信仰が再開さ



れました。その時に大きな役割を果たされたのが、新勝寺の中興の祖と仰がれる照範住職です

照範は、当時のスーパースター、初代市川團十郎と組み、江戸の人々にとって成田山新勝寺の名をまさに不動のものとした住職です。團十郎が男児を授からず悩み、成田の出である父親の勧めで新勝寺の不動尊に参詣したところ、男児を授かったという逸話があります。そこから團十郎の不動信仰が始まり、歌舞伎の『成田不動明王山』という演目の不動尊を初代自らが演じ十八番とし、にらみを利かせたときの掛け声が「成田屋」だったと言われています。『成田不動明王山』のお蔭で新勝寺の不動尊は大変なブームとなり、成田参りが盛んになったほか、江戸にまで不動尊が出張しての出開帳もたびたび行われたということです。

また、新勝寺のなかの建物の建築中にある大工さんが、2階から足を滑らせ落ちたとき、本人は無傷だったのですが、代わりに持っていた新勝寺のお札が割れていたということがあり、そこから身代わり札のお守りができ、兵士の無事を祈った戦争の時代も信仰を集めました。新勝寺には、広大な成田山公園があり、平和の大塔、幼稚園から高校までの私立学校もあり、今も信仰のみならず観光の拠点となっています。

成田山での観光も変わってきており、昔は成田講と呼ばれ、各地域でお金を出し合い、代表がお参りをし、お札をもらって帰るといった旅行形態でした。参詣者は旅籠に泊まったようですが、交通インフラが発達したことによってそういった講も少なくなり、現在、成田の参道には数えるほどの旅館しか残っていません。このため、参道では観光客を呼び寄せるためにさまざまなイベントを開催しているほか、狭い参道の幅を拡張して電柱も地中化し、景観を向上させるなどの取り組みをしています。成田が開港し、成田市は国際観光都市とも言われていますが、インバウンドの潜在能力が高いことは間違いありません。

2016年の全国の外国人宿泊者数をみると、千葉県は全国で6番目、334万人の外国人が千葉県に宿泊しています。そのうち約180万人が成田市を利用、ほかには千葉市と浦安市、わずかですが富里市にも泊まっています。外国人のほとんどが成田に泊まっているということは、他の地域には申し訳ないのですが、成田市にとって非常に大きなポテンシャルで、成田市が頑張らないでどうするのかと思っています。

訪日外国人の国別数でいうと、さまざまな推移がありましたが、現在、多いのは中国からです。北米からはかなり減ってきており、ここ10年で半分になりました。2007年と2016年の比較では、中国は約3.6倍に増加、アジア圏も、中国・台湾・韓国・香港を除いても約2倍になりました。台湾からは少し減り、香港は半分に減少。欧州も半分、韓国は半分以下、オセアニア、オーストラリアなどは非常に厳しい状況です。

それではこの状況をどう変えていくかということですが、日本全国の観光地を海外に紹介しているjapan-guide.comという、外国人の運営による有名なサイトがあります。これは外国人の評価の一端であろうと思いますが、千葉県のデータは「房総ペニンシュラ」と「成田市」の2つしか掲載していません。千葉県には、房総半島という十把一絡げの地域と成田市しかないという認識は不満です。成田市についても、知名度はありますが、成田市の観光資源はほとんど伝わっていないことは問題だと思っています。東京都には1,800万人の外国人が泊まっており、その10分の1が成田に泊まっているわけですが、それに対して成田市の観光拠点にお客さんが来ているのかということ、そんなことはありません。そして、

えています。特に大事なものは、観光の担い手、特に若手との推進体制を官民でしっかりや
っていく必要があると思っています。

名古屋の覚王山日泰寺の縁日「弘法さんの日」では自動車の通行を規制し、沿道で地元
のものをはじめ、いろいろな産物が売られ、多くの観光客で賑わっています。ここからは
私の妄想なのですが、新勝寺の参道は800mあり、その間にうなぎ屋さんが60軒あると言
われています。ここで一杯やりながら、参道に並んだつまみを食べながらのんびりと雰
囲気を楽しんでいただくのはどうでしょう。そのような企画も考えています。

また、参道沿いのお店はおおむね夕方の5時には閉店してしまいます。やはり旅籠が廃
れてしまった結果、夜遅くまで営業していてもお土産を買ってくれる人がおらず、それに
連れて飲食店も早く閉まるようになってしまいました。一方、成田の宿泊客180万の外国
人は、参道の雰囲気の中で食事を楽しみたいはずですが、現在、成田駅前には外国人で徐々
ににぎやかになってきましたが、新勝寺参道の本当に雰囲気の良いところは真っ暗なので
誰も来ません。来年の新勝寺開基1080年に合わせて800mの参道を石畳風の塗装にします。
その先には夜の参道をライトアップし、一つ一つのお店に外国人のお客さんが溢れる、そ
のようにならないかと夢見ているところです。

私はスペインに3年ほどいましたが、スペインには地元の人が自分の家を改装して宿泊
施設にし、地元の食べ物、地元の雰囲気を味わってもらおうといった制度が整っています。
同様にイタリアにもあり、こういうことを東京から最も近い「田舎である成田」としてで
きないものかと、これまた夢見ているところです。

時間もまいりましたので、若干中途半端な感じですが、成田市が考えている地域振興に
向けた施策と、観光への取り組みについて、課題を含めて説明させていただきました。ご
清聴ありがとうございました。